

大谷 康子(おおたに やすこ) ヴァイオリン

クワトロ・ピアチェーリ 第1ヴァイオリン

東京芸術大学、同大学院博士課程修了。全日本学生音楽コンクール全国第1位、シェリング来日記念コンクール第2位。1981~94年東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団首席コンサートマスターを務める。1988年日本の女性ヴァイオリニストで初めて一歌(3曲(メンデルスゾーン、ストラヴィンスキー、ラロ))のヴァイオリン協奏曲を演奏し、話題となる。1990年には、ヨーロッパ4都市(ローマ、ウィーン、ベルリン、ケルン)でリサイタルを聞き好評を得る。日本各地でのリサイタル、またスロヴァキア、アメリカ交響楽団、東京フィル、新日本フィルなどの共演の他、海外に招かれての演奏、テレビ、ラジオなどへの出演、さらに室内楽、現代音楽の分野にも力を入れ、常にその豊かな活動は多くのファンからの支持を得ている。また病院や各種施設でのボランティア活動にも積極的に取り組んでいる。1995年東京交響楽団コンサートマスターに就任し、現在に至る。1999年のサントリーホール大ホールでのリサイタルは満員の聴衆を魅了した。これまでに東京芸術大学付属高校で後進の指導に当たり、現在東京音楽大学教授。CDはSONY「藤原フアンタジー」他がリリースされている。

小原 淨二(おばら じょうじ) バス

若手学生卒業後、東京芸大声楽科に進学し首席で卒業。松田トシ賞受賞。同大学院独唱科修了。佐々木正利、伊藤直行、多田輝迪夫の各氏に師事。ドイツリート、オラトリオを中心に研鑽を積み、東京芸大時代に小村林道夫氏のもとパッサンタータクラブに所属し研究・演奏を行う。その後、国内外の演奏会にソリストとして出演。1992~1994年には鈴木雅明氏が音楽監督を務めるパッサンタータクラブのコーラスマスター及びソリストとして活躍。1994~1995年、ドイツに留学し、H.クレッチマー氏に師事すると共に多数の演奏会に出演。特に、ミュンヘン、ヘラレスホールにおけるニコルヘルク交響楽団定期公演、J.ツィルビ指揮、ハイデン「天地創造」バスソロなどは、現地新聞紙上等において絶賛される。帰国後も全国各地に招かれソロ活動を行い、宗教音楽の世界的名指揮者である、H.J.ロツテ、G.Ch.ピラー等との共演や、新日本フィルハーモニー交響楽団定期公演における、G.ボッセとの共演のほか、関西フィル、オーケストラ・アンサンブル金沢、スウェーデン放送合唱団との共演などで高い評価を得ている。現在、高知大学教育学部助教、高知パッサンタータフェライン指揮者、アンサンブル<BW2001>メンバー。

荻田 雅治(かんだ まさはる) チェロ

クワトロ・ピアチェーリ チェロ

桐朋学園大学で井上肇豊氏に師事。1973第42回日本音楽コンクール・チェロ部門第1位。82~90年東京交響楽団首席チェロ奏者をつとめる。82年よりニューアーツ弦楽四重奏団に参加し、団として、92年第4回飛騨吉川音楽大賞奨励賞、94年度文化庁芸術祭賞、94年度第13回中島健蔵音楽賞を受賞した。個人として92年度第11回中島健蔵音楽賞受賞。国内の主要現代音楽祭に常時出演しており、独奏者としての評価も高い。現在、東京音楽大学教授、桐朋学園大学講師、東京芸大大学講師。

クワトロ・ピアチェーリ Quattro Piaceni

かたよび音楽的にも、人間的にも、共感、信頼しあっていた4名が集まって、2005年、新しい弦楽四重奏団「クワトロ・ピアチェーリ」を結成した。日本のオーケストラや室内楽の分野でなくてはならない存在で、古典から現代まで、幅広く、豊かな演奏経験を持ち合わせた4人が、本格的にカルテットとしての活動を開始し、質の高い演奏をめざす。音楽の楽しさ、演奏する喜びを伝えられる弦楽四重奏団でありたいと願って、イタリア語で、「喜び、楽しみ」という意味である「ピアチェーレ(piacere)」の複数形のことをグループ名に据えた。2006年秋からスタートする年2回の定期では、ショスタコーヴィチの全作品と、邦人作曲家の優れた作品、そして海外のユニークな作品を取り上げていく予定である。とくに難解だとと思われる現代作品が、いかに楽しく、時代の息吹を伝える音楽であるかを伝えていきたい。

高知香南ジュニアオーケストラ

子どもたちに、オーケストラの音の響きと音楽演奏の楽しさ、心を合わせて合奏することのすばらしさを経験させたいとの願いから、1993年に野市小学校に弦楽器を20本購入し「野市小学校弦楽部」として活動を始める。その後、少しずつ楽器を増やし活動の幅を広げる。1999年から、教育委員会として活動内容の充実を図り、2000年には活動を備前から支えることを目的に、保護者、指導者を中心に「野市町ジュニアオーケストラ」を育てる会も作られた。教育委員会の実施する学校外活動のひとつとして、この「ちふれあいセンター」サンホールを主な練習場として、第2・4土曜日の午前中と毎週木曜日の夜活動している。現在、小学校低学年から高校生及びその保護者までが在籍し、現在団員は約700名。毎年開催される野市町音楽祭の出演や自主的な演奏会の開催の他、県内外の団体、音楽家との交流演奏や老人施設などへの訪問演奏なども積極的に行っている。

高知パッサンタータフェライン 合唱

高知パッサンタータフェラインは、1997年4月高知大学助教授小原浄二氏の呼びかけにより、J.S.バッハを中心とするバロックおよび古典の声楽作品を研究・演奏する団体として発足。メンバーは合唱経験も年齢も多種多様だが、小原氏の指導のもと心を一つに練習に励んでいる。1998年3月の第一回演奏会以来毎年春に演奏会を開催。パッサンのカントーラ多数、ヨハネ受難曲、モテット、モンテヴェルディやシユツツ等の作品を取り上げ「古佐の地にもパッサン」の想いと共に豊かな活動をを行う。2002年にはドイツから初来日したライブソビエト・バロックオーケストラと共演し、コンサートマスターより「光を放つような素晴らしい合唱」と高い評価を得る。また、その時から2004年夏にはドイツ演奏旅行を果たし、アイゼナハ、ライプゼン、ライプツィヒなどパッサンゆかりの地でこの演奏会に出演。その暖かい音色と確かな表現力は現地で絶賛された。

齋藤 真知亜(さいとう まちあ) ヴァイオリン

クワトロ・ピアチェーリ 第2ヴァイオリン

東京芸術大学を首席で卒業。1986年NHK交響楽団に入団。1991年津田ホールにて初リサイタル、好評を得る。1998年宮崎において松浦宏臣(P.T.)らと「トリオ・メルヴェイユ」結成。以後九州各地で演奏会を開催する。1999年からは自主企画リサイタル「Violologue(violin+dialogue)」を毎年開催し、様々な楽器との共演や、軽妙なトークは回を追う毎にファンを増やしている。2001年「Matthias Musium Quartet」も結成し、以後合奏団「弦楽四重奏の再結成」全国各地で演奏している。故西崎博二、奥田富士子、故泉原隆夫、海野義雄、二村英之、山口裕之の各氏に師事。現在NHK交響楽団第一ヴァイオリン・ファウエビューラー、東京音楽大学非常勤講師。他にも、指揮者としてジュニア・フィルを指導する他、自らの馬頭琴・口琴演奏を繰り込んだコンサートも行い、幅広い音楽活動を行っている。CDに、「シェンペルク/月に誘われたバシエロ」(TaRaGalレーベル)、「ザ・ビートルズ/オン・ストリング・カルテット」(Vapレーベル)、「弦楽四重奏による<ドラゴン・クエスト>」(アニプレックス/SJGレーベル)がある。

双紙 正哉(そうし まさや) ヴァイオリン

桐朋学園大学卒業。藤崎永寿、徳永二男の両氏に師事。

84年北九州音楽コンクール小学生の部第1位入賞、併せて文部大臣賞受賞。86年全日本学生音楽コンクール中学生の部西日本大会第1位入賞。大学在学中より広島交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団のゲストコンサートマスターをたびたび務める。95年、22歳の若さで東京交響楽団のアシスタント・コンサートマスターに就任。97年にはアソシエイト・コンサートマスターとなる。98年退団後はソロ、室内楽を中心に活躍中。98年4月NHKのFMリサイタルに出演。室内楽では「アート・ホール室内楽シリーズ」にたびたび出演する他、ストリング・カルテット「Arco」、ストリング・アンサンブル「ヴェガ」、ジャズ・アンサンブル「オーケストラ」、東京アンサンブルのメンバーも務める。98年から毎年サイトウ・キネン・オーケストラに参加。2002年から1年間ウィーンに留学し、A.アレンコフ氏に師事。2004年北九州市民文化奨励賞受賞。2005年5月より東京交響楽団首席奏者に就任し現在に至る。

百武 由紀(ひやくたけ ゆき) ヴイオラ

クワトロ・ピアチェーリ ヴイオラ

東京芸術大学卒業、同大学院修了。井上武雄、浅妻文樹、ウィリアム・プリムローズ、セルジュ・コロ各氏に師事。1975年デビュー・リサイタルを開催。以後、現在に至るまで、オーケストラ、室内楽、ソロで多くの演奏会、録音の場で活躍している。1999年まで東京都交響楽団に在籍し、首席奏者をつとめた。国内の音楽祭にゲストとして多数出演する他、カール・ライスター、ウルリッヒ・コッホ、ツェグ・クリサ等外来演奏家にも多数共演している。邦人作品、現代曲の初演も多く手掛けており、1999年日本音楽コンクール作曲部門の演奏に対して、審査員特別賞を受賞するなど、高い評価を受けている。ニューヨーク・カーネギー・ホールにおける演奏会でも邦人作品を紹介している。現在、東京シンフォニエッタメンバー、東京芸術大学及び付属高校、東京音楽大学、フェリス学院大学、名古屋音楽大学(特任教授)等で教鞭をとる。

宮田 信司(みやた しんじ) ピアノ

1958年名古屋生まれ。東京芸術大学音楽学部器楽科卒業後、渡独。1984年リュウベック国立音楽大学をコンツェルト・エグザメーン(演奏家資格試験)に合格し卒業。ハンブルク交響楽団とショパンピアノ協奏曲第1番共演のほか、各地で演奏活動の後、帰国。名古屋、高知などソロリサイタル、デュオリサイタルに出演。近年は室内楽の分野でも活躍中。藤井博子、小津信子、伊達純、坪田昭三、ローランド・ケラーの各氏に師事。現在、高知大学教育学部教授。(財)日本ピアノ教育連盟特別協議員、同四国西南支部支部長。

山本 友重(やまもと ともしげ) ヴァイオリン

1969年名古屋生まれ。4歳よりヴァイオリンを始める。名古屋市立菊里高等学校音楽科を経て東京芸術大学音楽学部に入學。第39回全日本学生音楽コンクール名古屋大会第2位受賞。第10、11回沖縄ムービー・ミュージックコンペに参加。第10回島嶼音楽祭に参加、特別奨励賞受賞。イタリアのレッジョ・エミリアで行われた、第2回「オロ・ボルチーナ」賞(国際弦楽四重奏コンクール)に、すばらしい弦楽四重奏団として参加。第3位及び特別賞受賞。副賞としてフランス、パリの国際カルテット・フォーラムに招待され、ジャン・セリジに師事し、好評を得る。松尾剛史室内楽コンクール第1位受賞。東京国際音楽(民音)コンクール室内楽部門で、第2位受賞。大学在学中より、すばらしい弦楽四重奏、アル・レスピギン、ジャパニアン・オーケストラ、フェスティバル・ソリスト、日本各地の音楽祭などでの室内楽的な活動に意欲を燃やす傍ら、数多くのオーケストラのゲストコンサートマスターを務めた後、若く22歳で東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団のコンサートマスターに就任。8年間を渡り重責を担って来たが、99年、退団。2000年からは、東京都交響楽団のコンサートマスターに就任。ここで活躍も大いに期待されることである。またNHK FMリサイタルや、98年からの自主企画によるリサイタルをはじめ、ソリストとしても活動を展開させている一方、多数のアマチュアオーケストラのリーダーとして高い評価が高い。これまでに、ヴァイオリンを大沢美木、北垣紀子、林茂子、泉山誠治、田中千香子、ヨゼフ・スークの各氏に、室内楽を原田幸一郎、ヤン・パネンカ、スメタナS.Q.、ラサーL.S.Q.、アマテウスS.Q.の各氏に師事。現在上野学園非常勤講師。

吉原すみれ(よしはら すみえ) 打楽器

東京生まれ。幼少の頃より、工藤昭二のマリンバのレッスンを受ける。高校入学時より、打楽器を小宅勇輔氏に師事。東京芸大音楽学部に入學し、打楽器一般を有賀誠門、マリンバを高橋美智子に師事。1972年東京芸術大学大学院在学中に、ジュネーブ国際コンクール打楽器部門で優勝、同時に各部門のグランプリであるプリ・アメリカン賞も受ける。以後、ヨーロッパ、日本を中心にソロ活動を続ける。1977年ミュンヘン国際コンクールで1位なして2位。ソロレコードがRCAより全世界に発売される。1979年より85年までカマラータ・レーベルにて5枚のソロ・アルバム(吉原すみれ・打楽器の世界1-5)を制作。1980年サントリー音楽賞受賞。アルバム「吉原すみれ・打楽器の世界1」において芸術祭優秀賞受賞。アンサンブル・ヴァン・ドリアン、トリアンダール・ミュージック・ツアールなどアンサンブル活動も行い、アンサンブル・ヴァン・ドリアン(団員として1983年中島健蔵賞受賞。1986年立花隆の制作録音によるCD「ときれた間」を発表。1986年-93年CBSソニーで4枚のソロCDと1枚のデュオCD(首の腫れ指輪との「デュエリ」)を制作。1991-97年ミュンヘン国際コンクール、1992年ジュネーブ国際コンクール、審査員。1993年ニューヨークにてミュージック・フロム・ジャパン公演。97年「打楽器通信」、2002年「打楽器通信2」(フォンテック)CDリリース。2002年第20回中島健蔵音楽祭優秀賞を受賞。アンサンブル・タケミツにも多数出演。武蔵野音楽大学教授。

脇岡 総一(わきおか そういち) オーボエ

広島市に生まれる。1972年東京芸術大学音楽学部卒業。その後、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団を経て、東京都交響楽団首席オーボエ奏者をつとめる。その間、1969年日本音楽コンクール入賞、安宅賞受賞、卒業特別演奏会、NHK新人演奏会等に出演。1974年民音室内コンクール入賞。1982年、文化庁海外派遣研修生として西ドイツ・ハンブルクにてW-リーパーマン氏に師事。1981年キングレコードより「オロ・ボルチーナ」のレコードが発売される。また、「東京リステット」(古典音楽協会「武蔵野主催の「ミュージック・ツアール」等を始めとする数々の演奏会)に出演。さらに、「FMクラシックアワー」[午後のリサイタル]「クラシック・オン・ステージ」等多くのテレビ・ラジオ音楽番組に出演。日本の第一線のプレーヤーを集めた「アウロス・チェンバー・アンサンブル」を主宰して日本各地での演奏会、放送などを行う。また、ウィーン・トリオ、シカゴ・プロムジカ、M.クレメント(cb)等海外の演奏家との演奏も数多く、1994年にはロリン・マゼール指揮のバイエルン放送交響楽団、ピナカ・ズッカーマン指揮のイングリッシュ・チェンバー・オーケストラに出演する。また、スーパーワールド・オーケストラ・ジャパン・ヴァイタル・オーケストラ等のフェスティバル・オーケストラにも多数出演する。「脇岡の音」と題するリサイタルシリーズやオーケストラとの共演を始めとする、独奏者としての数多くのソロ活動も精力的に行い、日本音楽コンクール、全日本吹奏楽コンクール、日本クラシックコンクール全国大会等多くのコンクールの審査員もつとめている。2005年3月に東京都交響楽団を退団し、4月より高知大学教育学部教授に就任しフリーのオーボエ奏者としても活動をおこなっている。



The Museum Hall
高知県立美術館ホール
高知県立美術館
THE MUSEUM OF ART, KOCHI
〒781-8123 高知市高須353-2 TEL088-866-8000 FAX088-866-8008
http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/museum